

総合食品容器メーカーの北原産業(岡山県倉敷市、〒086-5266・3040)は、創業50年で培った開発力、提案力と優れた技術力で強い存在感を放っている。次の時代を見極め一歩先行く姿勢を信念とし、ソリッド化成品と紙製品の両面から行われる多様な製品提案に、顧客からの信頼は厚い。代表取締役・北原忠氏に、同社の現状と展望を聞いた。

## インタビュー

まずは、このたびの西日本豪雨で被災された多くの方々、心よりお見舞い申し上げます。当社の社員にも、被害を受けた者が少なからずおります。当グループにおいては、一部工場で多少の水害があったものの、社員一丸となり数日で復旧し、稼働しています。運送便の混乱などの影響につきましても、1日も早い通常復帰を目指し、努力をしておりますが、ご迷惑をお掛けしているお客さまに

は心よりお詫び申し上げます。さて、当社はプラスチックと紙という異なる性質の製品を扱う強みを生かし、仕出しや弁当、惣菜など多様な食シーンのニーズに応えた提案で、多数の実績を築いてきました。企画から製造、印刷、販売までの一貫体制

で「ホクサンスターパック」をはじめとする、自社ブランドの食品容器を多数展開し、日本全国から海外まで幅広い地域のお客さまに支持いただいています。

# プラ・紙両分野で出荷好調

## 拡販に向け体制構築に注力

た見栄えを両立しました。従来にない高付加価値製品として評価いただいております。一層の販路拡大へ力を注ぐ方針です。

紙製品分野では、2段仕様の「こと弁」シリーズなど独自性を出した製品が、デパ地下や仕出し、料亭などで需要を堅調に伸ばしています。また、会席膳や弁当などで、順次新たな

利益を確保することには、組織の疲弊や弱体化にもつながりません。当社においては、「拡販」という次の局面に向け、営業体制を整えることが肝要だと考えます。い

ずれにしても、本質をしっかりと見極めながら着実に事業を推進することで、業界における存在価値をさらに高めていきたいと思っております。



北原産業  
代表取締役  
北原 忠氏

ただいでいます。特に化成品分野は、一昨年に発売した透明嵌合容器「タイトカップ(スリム)」シリーズが好調に出荷を増やしています。「漏れにくく、閉めやすく、開けやすい」機能性だけでなく、嵌合の設計をスリムにすることで天面スペースを広く設け、A-PEET製品ならではの透明感を最大限に生かし

製品の投入も予定しており、引き続き市場ニーズを捉えた提案で、お客さまの期待に応えてまいります。昨今の業界動向について言えば、今春に多くのプラ容器メーカーが価格改定に乗り出しました。同様の動きは以前にもありましたが、業界内の足並みがそろわず、価格転嫁には至りませんでした。原